

先日はふれあい行事・ふれあいバザーにたくさんのご来校をいただき、また本部役員さんや各委員さんには準備・運営等たいへんお世話になりました。私は初めてでしたが、何もかもが驚きの素晴らしい行事でした。ゴミの始末も担当のみなさんにたいへんお世話になり、翌朝校地の内外や校舎内に行事のなごりのゴミなどなく、皆様の心配りに感謝いたします。



なお、「校長商店」は“営業努力不足”で売り上げ不調でしたが、ご協力いただきました方にはありがとうございました。いただいたご厚志と用途は次のとおりです。

校章バッチ 2,800円→児童の図書購入へ
PTA新聞縮刷版 2,300円→PTA特別会計へ

終業式の話

残念ながらインフルエンザの流行を考慮し、一堂に会することは避けましたので、私からの話も放送で流すことになりました。話の趣旨は次のとおりです。

三重県は横断歩道で横断中の人がいっても停止をしないことでワースト3になった。一方で見方を変えると、養正小の子も停まってくれた車にお礼を言っているか？4年前にはお礼を言う運動があつて新聞にものつた。交通のことばかりでなく、冬休みはものやお金をもらうことが多い時期だし、何事にもお礼を言うことは大事。世界にはみんなと同じ年頃で学校に行けない子が6000万人いるといわれている。そんなことにも目を向けて冬休みはいろんな感謝をしてすごそう。

あいさつ

5/1号に書いたように、朝昇降口で子どもたちを迎えていると、自分からあいさつをする子が比較的多いなあと感じます。(この時期はやや低下はしています)もちろん私が立っているのは、8時すぎまでなのでそれ以降にくる子はわかりません。



当然、人間どうしどちらが先に「おはようございます」を言ってもかまわないわけですが、将来の生活で目上の人・先輩・職位が上の人・来店された人などには自分からあいさつをするほうがいいことは言うまでもありません。私もできるだけ近くにくるのを待って、なかなか自分から言えそうにない子にはこちらから「おはようございます」と声をかけます(相撲の立ち合いみたいなので、そうそううまくいくわけではないですが)。次のような子は将来の生活で人からうける印象が、フィギュアや体操にたとえると、“加点ポイント”だと思っています。



離れたところからでも元気よくいう／私が逆方向を向いても「校長先生」と声をかけてからあいさつする／あいさつしながらニコッとする／ぺこっと頭を下げながら／友だちにも「おはよう」／教室にはいるときも「おはよう」／ など

3学期のスタートもお互いにさわやかに朝のあいさつしていきたいと思っています。もちろん家を出るときも、近所の人にも。



手袋をはめずポケットに手を入れてくる子がけっこうあります。危ないので寒かったら手袋を

何が「フラック」？

最近、報道等で教員の働き方が一挙に取り上げられるようになりました。広報津のコラムにも市長さんがこの問題をとりあげてもらいました。もちろん今集中的に注目されたので教員のことばかりが目立つようですが、保護者の皆さんも地域の皆さんもそれぞれのお仕事（家事労働も含む）に大変さがあります。忙しさや大変さの質が違うので、一概に比べることはできません。

学校という労働環境は特殊性があり、どこまでが仕事か見分けがつきにくい部分があります。（例えば、昼食（給食）を食べていても指導をしながらですから、休憩にはなりません）また、教員には「教職調整額（教諭と常勤の講師）」が基本給の4%分上乘せされていますが、その分時間外手当や休日勤務手当はありません。しかし、この4%が問題となっていて、これは昭和41年度の教員の週平均の時間外労働が2,3時間であったところに算定されたもので、今の過重な労働時間に見合ったものではありません。いつしかそれに対して、「子どもたちのためならそれでもしかたない」という思いになり、教員のボランティア的な無制限な労働が産み出されたと言えます。本校の教員も全国平均の1日あたりの勤務時間11時間15分をオーバーする者が多いのが実情であり、休日等に勤務と認められ振替を与えられる仕事というのはごくわずかしかなかったりありません。しかもその振替があったとしても、授業日にはとても取得できないので、長期休業中の取得となってしまいます。

とはいえ、養正小のPTAや地域の皆さんが子どもたちのために思いをいただく行事や活動には、教職員も一体となってさせていただくという思いも強くもっています。

先日、教職員の残業時間を月45時間以内とするガイドラインを2020年度をめぐりに設定する方向が示されました。教育の質をおとさずに実効性がどこまで担保されるか

難しい面もありますが、教員の健康や生活を考え、また将来の教職希望者の確保のためにも大切なチャンスであると思います。

市長さんもコラムの表題を「多忙な先生を子どもたちに返そう」とされました。子どもたちにとっても疲れた表情の先生より、いきいきした先生のほうが教育の効果はあがるでしょう。冒頭にも書きましたように、教員ばかりでなく皆様それぞれに仕事・生活の大変さがありますが、最近の報道を少しでもご理解いただけたらと思います。



インフルエンザの流行

学期末にきていきなり大流行となり、閉鎖の学級、出席停止のお子さんのおうちにはたいへんお世話をおかけしました。学級閉鎖は、25%程度の児童が発症し、感染の拡大が予想されるときに教育委員会の措置として行われます。朝から欠席状況や登校している児童の体調を確認し、学校医先生に相談し、そのうえでデータをあげ教委の判断をうけます。加えて登校している児童をどのように下校させるかなどを検討してからメール配信となりますので、どうしても相応の時間がかかることをどうぞご了解ください。

ホームページのアクセス数 20,000 に

2016年4月に現在のホームページになってからの閲覧いただいた数が11/25の朝に大台にのりました。冬休みはあまり更新できませんが、ご家庭で2学期を振り返る思い出話の材料にいただいたり、親戚の方にみていただいたりしていただければ幸いです。

玉置町公園側の門扉

あまりにも重く不便をかけていましたので、車輪を取り換え軽くしてもらいました。逆に勢いがつくと危ないのでゆっくり開閉してください。

